

講義名	心理学演習（体験型コミュニケーション）			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

SNSの普及は利便性ととも、以前には見られなかった新しい形式で人と人とを繋ぐツールを私たちの日常生活にもたらした。他方、SNSの普及により、直接他者と対面してコミュニケーションをとりながら人間関係を構築することに苦手意識をもつ若い世代を生み出してきたことも否めない。本コースでは、「ラボラトリー方式」による体験学習を通じてグループメンバーとの対面によるコミュニケーション活動を実施する。具体的にはグループワークにおけるプロセスを振り返り、良好な人間関係を築くために必要な知識と態度、そしてスキルを習得することにより、学生諸君が卒業後のビジネスコミュニケーションに役立つコミュニケーショントレーニングを実施する。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

- (1) 自分のこれまでの他者との関わり方を見直すことができる。
 - (2) どのようにして良好な人間関係を構築するのかについて、考察を深めることができる。
 - (3) 自分自身を見つめ直し、自己分析する方法を探ることができる。
 - (4) 多様な視点で物事を捉えることができるようになる。
 - (5) 他者と協働することの意味や意義を考え、実践できるようにする。
 - (6) リーダーシップやコミュニケーションのあり様がグループダイナミクスに与える影響について考察する。
- * 上記を踏まえて、実生活で他者と協働し、共存するためのコミュニケーション力を養う。

提出課題

「自己理解」「ビジネスマナー」「異文化間コミュニケーション」といったビジネスコミュニケーションに必須のテーマを扱った課題を期限までに提出する。また、授業後は毎回の授業活動に対する考察や学びをクラス独自のワークシートに記入し提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回、授業後に振り返りシートの執筆を課す。翌週の授業の最初に匿名でクラスメートの振り返りシートの幾つかを講師が紹介、コメントし、クラスで共有する。その他の課題については、授業中のグループワークで使用し、ディファレンシアングを行う。

評価の基準

- (1) 課題（60%）
- (2) 最終レポート試験（40%）

* 上記の両方に取り組みなければ単位は取得できません。

履修にあたっての注意・助言他

- (1) コースの評価は、「評価基準」で示したすべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
- (2) 講師が入室したときに教室にいない学生は遅刻者と見なす。特別な理由がない限り遅刻厳禁。
- (3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となる。また、規定以上の回数欠席すると単位が認定されない。遅刻するとその日のワークに参加できなくなり、振り返りシートも提出できなくなるので注意すること。

* 詳細は、第1回目の授業で知らせる。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

その他

必要に応じて、適宜、「講義連絡」に掲示する。

授業計画

回 授業内容

1. コースガイダンス；円滑なビジネスコミュニケーションのための4つの要素とは
2. ビジネスコミュニケーション1（敬語トレーニング1、人間関係の心理学1、自分を知る。）
12. ビジネスコミュニケーション11（敬語トレーニング11、リーダーの心理学1、寝たきりしない手）
4. ビジネスコミュニケーション3（敬語トレーニング3、人間関係の心理学3、文章に表れる自己）
5. ビジネスコミュニケーション4（敬語トレーニング4、人間関係の心理学4、私の20の扉）
6. ビジネスコミュニケーション5（敬語トレーニング5、人間関係の心理学5、自己開示）
7. ビジネスコミュニケーション6（敬語トレーニング6、人生の意義と心理学、言い換え表現1）
8. ビジネスコミュニケーション7（敬語トレーニング7、やる気の心理学1、言い換え表現2）
9. ビジネスコミュニケーション8（敬語トレーニング8、やる気の心理学2、発想の転換）
10. ビジネスコミュニケーション9（敬語トレーニング9、やる気の心理学3、原因帰属）
11. ビジネスコミュニケーション10（敬語トレーニング10、やる気の心理学4、こころの支え）
12. ビジネスコミュニケーション11（敬語トレーニング11、リーダーの心理学1、寝たきりしない手）
13. ビジネスコミュニケーション12（敬語トレーニング12、リーダーの心理学2、カウンセリング体験）
14. ビジネスコミュニケーション13（敬語トレーニング13、リーダーの心理学3、互恵的援助関係）
15. ビジネスコミュニケーション14（敬語トレーニング14、リーダーの心理学4、10年後のあなたへ）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> O：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：前回の授業の復習 および、翌週の授業準備のための課題に取り組み。（約2時間）
 復習：その日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、講義内容や授業内活動に対する振り返りシートを執筆する（約2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースは以下の点において、人間社会学部心理コースのディプロマポリシーに貢献する。
 (1) 講義を通じて、自己理解とともに人々の心理を理解し、同時にコミュニケーション能力を培うことは、よりよい人間社会の創造につながる。
 (2) 毎回の課題に対するクラスメートの意見やフィードバックを共有する。また、個人が自身の体験や学習事項を内省することで、日常生活だけでなく、ビジネスや援助場面等、その他、諸々の社会生活の場面に於ける実践へとつながることができる。
 (3) 授業では異文化トレーニングや対人コミュニケーションの理論に基づき、体験学習を実践するが、その際、実践だけではなく、人の心理と行動に関する知識も深めることができ、ビジネス場面や援助場面で応用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回、授業後に振り返りシートの執筆を課す。翌週の授業の最初にクラスメートの振り返りシートを講師が紹介、コメントし、共有する。受講生からの質問は、随時、授業中や振り返りシートを通じて受け付け、翌週の授業でコメントする。

実務経験の有無及び活用

備考

このコースは体験学習に重きを置いた内容の授業であるため、黙って出席しているだけでは授業に参加しているとは見なされません。受講生には積極的な姿勢で参加することを期待します。第1回目の授業から体験学習を実施するので、必ず出席すること。その他、授業に関する連絡は「講義連絡」を通じて行うので必ず確認してください。